

ソリッドエース取扱い上のお願い

1. 使用上のお願い

- ①ソリッドエースは、地盤改良するためのセメント系固化材であり、モルタル・コンクリートには使用しないでください。
- ②ソリッドエースと対象土の混合割合は、改良効果に大きく影響しますので均一に混合してください。また、混合不良や過剰添加した場合に膨張を起こすことがありますので、適正な添加量でご利用ください。
- ③ソリッドエースをご使用の際は、必ず事前試験を行い、改良土からの六価クロム溶出量が土壌環境基準値以下であることをご確認ください。土壌環境基準値を超えた場合は使用しないでください。

2. 安全衛生上のお願い

- 本製品の安全な取扱いについては、弊社ホームページの安全データシート(SDS)をご確認ください。
- ①ソリッドエースを直接、目、鼻、口に入れたり、皮膚に触れないようにしてください。
 - ②ソリッドエースは、水と接触すると水酸化カルシウムを生じ、アルカリ性を呈し、皮膚、目、呼吸器などを刺激し、炎症を起こすことがあります。
 - ③ソリッドエースが目、鼻、口に入ったり、皮膚に触れた場合は、すみやかに水で洗浄し、専門医の診察を受けてください。
 - ④ご使用に際しましては、防塵メガネ・防塵マスク・手袋などの保護具を着用して

ください。

- ⑤ソリッドエースには、極微量のクロム化合物が含まれており、六価クロムに対して過敏である場合は、アレルギーが起こる可能性があります。

3. 保管上のお願い

- 現場などで保管する場合は、水が浸入しないようにパレット敷きなどでかさ上げしてください(直接、地面に置かないでください)。また、雨が降る恐れがある場合は、ビニールシートなどで覆い、ロープで固定してください。

フレキシブルコンテナの取扱い上のお願い

1. 吊上げ・吊下げの場合

吊ロープ、吊ベルトのフックは正しく掛け、片吊、急な吊上げ・吊下げ、横引きはしないでください。

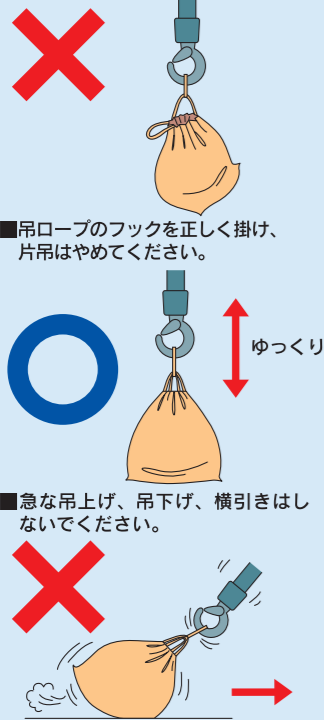
2. 排出する場合

吊上げたフレコンの下に入って開口作業をしないでください。また、開口部が地面にふれないよう吊上げ排出し、内容物は残らぬように全部排出してください。

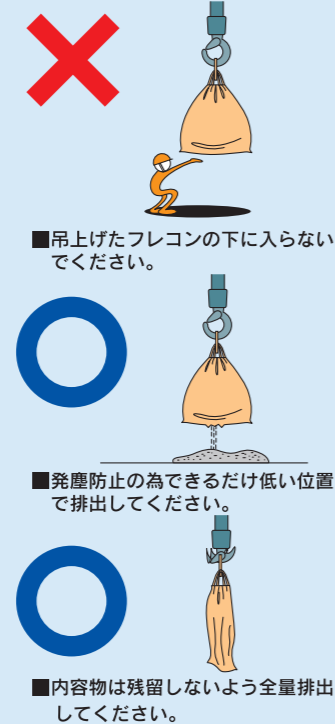
3. 残材処理について

ご使用後のフレコンや残材は法律に基づき適切な処理をお願いいたします。

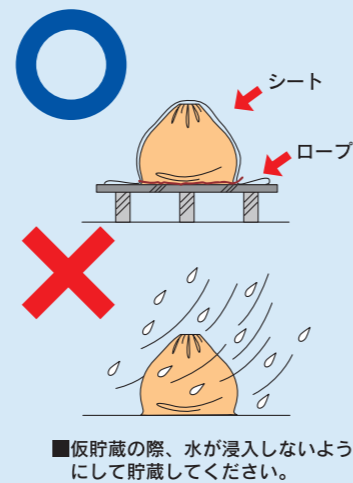
1. 吊上げる場合



2. 排出する場合



3. 保管する場合



麻生セメント株式会社

本社	〒814-0001 福岡市早良区百道浜 2-4-27 AIビル 11F TEL092(833)5100 FAX092(833)5116
福岡支店	〒814-0001 福岡市早良区百道浜 2-4-27 AIビル 11F TEL092(833)5110 FAX092(833)5119
鹿児島営業所	〒891-0131 鹿児島市谷山港 2-26 TEL099(262)0777 FAX099(262)0779
大阪支店	〒541-0047 大阪市中央区淡路町 3-5-13 創建御堂筋ビル 3F TEL06(6222)2211 FAX06(6222)2202
中国支店	〒730-0037 広島市中区中町 7-22 住友生命平和大通りビル 4F TEL082(247)9447 FAX082(247)1968
四国支店	〒760-0050 高松市亀井町 8-11 B-Z 高松プライムビル 5F TEL087(813)0295 FAX087(813)0251
セメント・コンクリート 技術センター	〒800-0311 福岡県京都郡苅田町長浜町 10 TEL093(435)1630 FAX093(435)1710

SA

特殊土用セメント系固化材 (汎用型)

ソリッドエース #400

六価クロム溶出抑制型



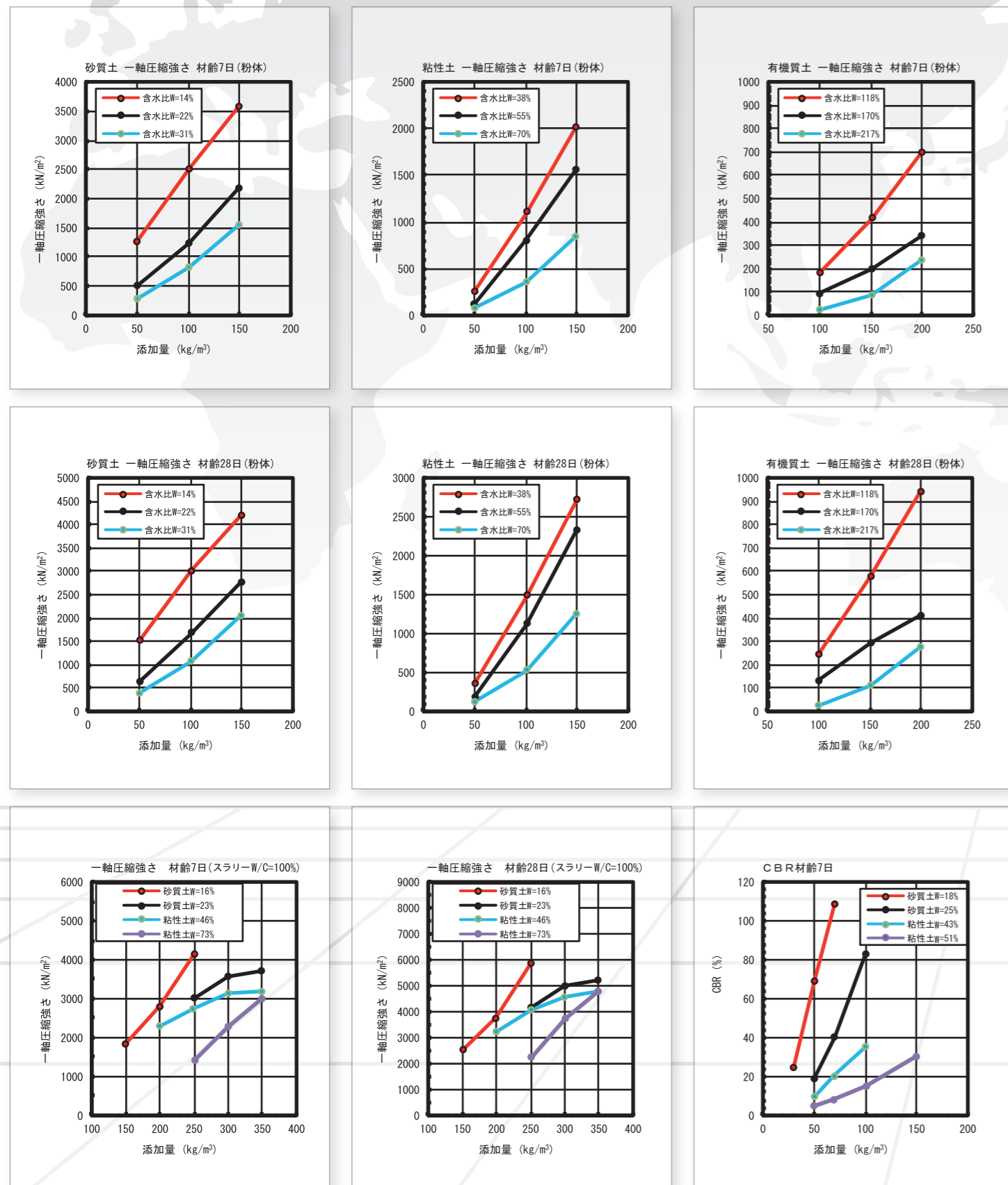


特殊土用セメント系固化材（汎用型）

ソリッドエース #400

ソリッドエース #400 は砂質土・シルト・粘性土・有機質土・火山灰質土等、多様な土質に対応した六価クロム溶出量低減型のセメント系固化材です。
土にソリッドエース #400 を混合すると水和反応やポソラン反応により固化します。
その強度発現は土質、添加量などにより異なります。

■室内配合試験例



■ソリッドエース #400 を用いた改良土からの六価クロム溶出試験例

	土質	湿潤密度 (g/cm³)	含水比 (%)	添加方法	添加量 (kg/m³)	改良土からの六価クロム溶出量 (mg/l) ※
1	砂質土	1.971	23	粉体	50	0.02 未満
2	砂質土	2.157	15	粉体	100	0.02
3	砂質土	1.990	21	スラリー W/C80%	250	0.02 未満
4	粘性土	1.755	48	スラリー W/C80%	300	0.02 未満
5	粘性土	1.603	65	粉体	100	0.02 未満
6	有機質土	1.290	156	粉体	150	0.02 未満
7	火山灰質粘性土	1.387	114	粉体	150	0.04
8	火山灰質粘性土	1.323	121	スラリー W/C80%	400	0.02

※環境庁告示46号法に準拠、土壤環境基準0.05mg/l以下

■現場施工

浅層改良・深層改良・汚泥等の固化処理、さらには発生土の有効利用など幅広い用途に適応しています。

□路床改良



□宅盤改良



□発生土の利用



□流動化処理土

